

女性研究者・技術者委員会ニュース

No. 30 2019年2月28日

連絡先：日本科学者会議全国事務局 Tel：03-3812-1472、Fax:03-3813-2363
e-mail：zenkoku@jsa.gr.jp ホームページ：<http://www.jsa-tokyo.jp/woman/index.html>

目次

- 1 女性研究者・技術者委員会委員長挨拶
- 2 特集 日本科学者会議/第22回総合学術研究集会
分科会「女性研究者問題を考える -不安定雇用の女性研究者の立場より」
- 3 2017年度 女性研究者・技術者委員会 議事録

1 女性研究者・技術者委員会委員長 挨拶 笹倉万里子さん(岡山大学)

今期、女性研究者・技術者委員会の委員長を拝命しました岡山大学の笹倉万里子と申します。私は専門がコンピュータソフトウェアで所属も工学部、普段は男性に囲まれて仕事をしています。女性研究者の問題を話し合える人が身近にいないため、そのような話をするためには他学部のみなさんと積極的に交流しなければなりません。JSAにもそのようなきっかけがかかわっております。

組合では事務系の女性の非常勤職員問題にかかわってきました。セクシュアル・ハラスメント問題では主に社会学関係や法律関係の研究者の方々と交流をもつことができました。今回女性研究者・技術者委員会に関わらせていただいてそれらとはまた違った分野のみなさまとお知り合いになることができ、とても幸せなことだと思っております。

微力ではありますが、少しでもみなさまのお役に立てればと思っております。よろしく願いいたします。

2 日本科学者会議/第22回総合学術研究集会 分科会

「女性研究者問題を考える -不安定雇用の女性研究者の立場より」

<プログラム>

①開催日時・場所：2018年12月9日 9:00～12:00

②コーディネーター 笹倉 万里子さん(女性研究者・技術者委員会委員長)

③演題・報告者

9:05～ 深谷 桃子さん(琉球大学)

「大学における任期つき女性教員・研究者の就労環境に関する問題 - 事例と分析」

9:45～ レイフィールド 典子さん(琉球大学ほか非常勤講師)

「非正規女性教員・女性研究者 の労働と研究環境 — 沖縄県のアンケート調査から」

10:25～ 休憩

10:35～ 大竹 美登利さん(東京支部・東京学芸大学)

「不安定雇用の女性研究者の立場より女性研究者問題を考える - JSA 女性研究者・技術者調査チームによる不安定雇用の立場の女性研究者の実情に関する質的調査結果報告」

【調査チーム(敬称略):大竹 美登利(東京支部・東京学芸大学)・朴木 佳緒留(兵庫支部・京都教育大学)・笹倉 万里子(岡山支部・岡山大学)・真嶋 麻子(東京支部、日本大学)・廣森 直子(青森支部・青森県立保健大学)・衣川 清子(東京支部、非常勤講師)・斎藤 悦子(東京支部・お茶の水女子大学)】

<分科会まとめ> 笹倉 万里子さん (女性研究者・技術者委員会 委員長)

22 総学は無事に終わりました。女性研究者・技術者委員会では二日目の昼に女性交流会、三日目の午前に分科会を担当しました。女性交流会は事前の申し込みが少なくでどうなることかと思いましたが、最終的には 10 名以上の参加者があり、なごやかに交流ができました。今の若い人は、任期付きだったり保育所もなかなか入れなかったりという状況で大変だね、という気持ちを共有しました。

分科会の方は、あいにく、NPO 法人全国女性会館協議会の全国大会が同じ日に沖縄で開催されていて、関係しそうな人の多くがそちらにいらしてしまっていたということで参加者は 15 名前後と少なめでしたが、活発な議論があって非常によかったと思います。特に少ないながらも沖縄の方たちと顔を合わせてお話しできたことはとても意味のあることだったと思います。

第一発表者の深谷桃子さんは、琉球大学の男女共同参画事業の特命助教というお立場から大学における女性教員をめぐる最新の数値データを紹介くださり、また琉球大学の具体的事例などを紹介してくださいました。

レイフィールド典子さんは、沖縄県の女性非常勤講師の方々にアンケートをしてくださり、その結果を発表してくださいました。沖縄県でこのようなアンケートはあまり実施されたことがないということで非常に貴重なアンケートであったと思います。

大竹美登利さんは、われわれの委員会の調査チームの中間発表ということで 5 名の方のインタビュー結果を発表してくださいました。これもなかなか興味深い内容でした。

全体的なまとめは次の通りです。

1. 非常勤だけで生活している人は地方ではあまりいない
2. 自分の問題がジェンダー問題、女性問題と思っていない人が結構たくさんいて、問題を問題と感じにくい現実がある。
3. 特に非常勤講師の方々は「研究者」としてのアイデンティティをもちにくい。

4. JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)の事業がプロジェクトで女性教員を任期付で雇用するようにしていることは、女性教員の不安定雇用を再生産する側面をもっているのではないか。

<報告者から一言>

①深谷 桃子さん (琉球大学)

今回の分科会では「大学における任期付き女性教員・研究者の就労環境に関する問題～事例と分析～」というテーマで、女性研究者の問題として、特に特任・特命教員、PDといったフルタイムで働く任期付きの研究者の実態について、国立大学の状況や教員・研究者の採用等に関連するデータ等を基にご説明しました。また、琉球大学の現状と「任期付き」教員に関する事例をご紹介し、就業規則や関係する法律などとあわせて、支援の在り方を考察しました。不安定な雇用形態によって生じる就労環境の問題が、女性研究者のライフイベントと研究の両立や、任期終了後のキャリアパスにどのような影響を及ぼすのか、非常に難しく複雑な問題ではありますが、多様な働き方を尊重し、女性研究者が活躍できる就業環境を整えるためにも、これらの問題の解決・改善に向けて大学は今後も積極的に取り組んでいく必要があると考えています。

フロアからのご意見・ご質問からは、様々な立場において必要とされる支援について、さらに検討を深めるためのヒントを沢山いただきました。この度は、このような素晴らしい貴重な機会を与えていただき、関係の皆様にご礼申し上げます。

②レイフィールド 典子さん(琉球大学ほか非常勤講師)

この度日本科学者会議第22回総合学術研究集会在沖縄県で開催されることになり、初めて参加いたしました。女性研究者・技術者委員会主催の分科会では、沖縄県内の大学で実施したアンケート調査の結果をもとに、不安定雇用におかれる女性教員、女性研究者の研究・労働環境について報告を行いました。

実は、私の専門は統計的分析や実証的な調査とはあまり縁がない分野で、そのようなプレゼンテーションの経験もなかったため、今回の分科会での報告にあたって多少不安がありました。しかし当日は会場の穏やかな雰囲気のおかげで、落ち着いて発表を行うことができました。またその後のディスカッションや、分科会後の個人的なお話を通して多くの方々から貴重なご意見をいただくことができ、大変有意義な機会になりました。

大学の非常勤講師の問題を論じた文献はすでに多く存在しますが、今回の調査からも経済的に不安定で、不安を抱える非正規雇用者の実態が明らかになりました。アンケートに目を通して見ると、長年非常勤講師として勤務されている先生方の多くが研究を諦め、研究者としてのアイデンティティを失わざるを得ない理由が見えてくるような気がします。

生活が安定しないので研究以外の仕事を優先する、出産・育児などのライフイベントの影響を受ける、研究者間のコミュニティに常勤と対等に参加できない…など、さまざまな理由です。沖縄のような離島では本土で開かれる学会に参加しづらいという地理的な問題も生じます。アンケートでは非正規に対する大学からの支援を求める声が多くありましたが、大学自体の予算が削減される中、どのような協力が得られるかは不透明です。しかし諦めずに、今後も雇用環境、研究環境を改善するための知恵を出し合っていくことが重要なことだと思います。

最後になりますが、女性研究者・技術者委員会が大学における不安定雇用の問題を継続して取り上げ、このような貴重なディスカッションの機会を与えてくださったことに感謝いたします。

③大竹美登利さん(東京学芸大学)

分科会 G3 「女性研究者問題を考えるー不安定雇用の女性研究者の立場よりー」では3つの報告と討議がなされた。その一つである「不安定雇用女性研究者・技術者調査チームによる不安定雇用の立場の女性研究者問題を考えるーJSA 女性研究者・技術者調査チームによる不安定雇用者の立場の女性研究者の実情に関する質的調査権か報告ー」を大竹が報告した。

本調査は、不安定職に就いている女性研究者が抱えている生活や研究遂行上の問題を明らかにすることを目的に、2年程前に7名の調査チームを発足させ、当事者の意識、意見、要望等を質的調査によって探ったものである。大竹は生活時間のジェンダー分析に取り組み、男女共同参画室をたちあげて推進してきた経験から、調査チームの代表として関わることとなった。

調査では、不安定雇用は本人の希望ではないこと、非正規の研究環境は圧倒的に不利な条件下に置かれ研究者としてのキャリア形成に大きな障害となっていることが明らかとなった。プロジェクト型の予算が増えるにしたがって任期付きの不安定雇用者が増加し、なかでも女性はそのポストに就くことが多く、その結果女性研究者の問題が潜在化しつつあることが明らかとなった。

<参加者感想>

①山本 桃子さん(早稲田大学)

不安定雇用は女性特有の問題なのか、男性も含む若手研究者全体の問題なのか、あるいは共通する側面とそうでない側面が混在しているのか、自分も任期付きの職に就いている身として興味津々で参加した。レイフィールド典子氏(琉球大学他非常勤講師)の発表では、生活していくために多くの授業コマを担当せねばならず、必然的に自分の研究時間が削ら

れる、という非正規女性教員の声が発表された。深谷桃子氏(琉球大学)の発表では、「妊娠中の異常な症状等を理由に負担軽減等対応の措置を求めた際に、非常勤職員就業規則が適応されたために通勤緩和等の対応を受けることができず、有給休暇を充てた。」という任期付き女性教員の相談が紹介された。

妊娠・出産によって長期間研究から離れざるを得ない点は女性特有であり、研究キャリアと同時に生活者としてもキャリアを設計せねばならない、女性の抱えるジレンマを感じた。また、「沖縄は島という地理条件から、国内学会参加の場合でも航空券の手配が必要で、出張費用がかさむ。そこへのサポートも必要である。」という指摘は、東京在住の自分には想像の及ばない視点であった。このように、複雑に絡み合った要因の正体を地道に明らかにし、一つ一つ解決していくことが、ワークライフバランスを取るために必須であると痛感した。

②廣森 直子さん(青森県立保健大学)

日本科学者会議に入って初めて総学に参加した。JSA 女性研究者調査に関わっている立場から女性分科会に出席することが主な目的だったが、他の分科会や懇親会にも参加して、年齢とジェンダーに著しくバイアスのある状況を目の当たりにして、やっぱりそうなのね…との認識を強化してしまった。分科会での報告と議論から、昔からあるのに未だ解決されていない問題、新たな状況から生じる多様な事情など、改めて山積している課題の多さ、この問題を論じる軸を立てる難しさを感じている。

安定した研究職のポストを得ることが性別問わず容易ではない現在、「女性であること」を共通項にして説明できることは何であろうか。古くからある女性研究者問題も残存しつつ(その中心は子育てや介護などの家庭責任と研究・教育との両立や困難性だと思うが)、新しい状況によって研究者であることの意味やアイデンティティや選択は多様化しているように思われる(それとも女性が多様ということなのか)。子どもや要介護者を持つ人と持たない人の分断について議論で触れられたが、「女性であること」は、たとえ結婚や出産を選択しなくても、そのことにまつわる周囲からの期待やまなざし、自分のキャリアとの兼ね合いからの躊躇や焦りや迷いや葛藤と無縁な人はいないのではないだろうか。一方で、インタビュー調査をしていると「女性ゆえの不利な経験はない」と語る人が多い印象がある。なぜだろう？ まだ言語化されていない「生存バイアス」のようなものでもあるのだろうか。

日本の大学や学術研究の行く末が危うくなるのを感じる今日この頃、多くの教員が多忙な毎日をやりくりし、長期的な見通しでなく短期的な目標を意識して働かざるを得ないと感じている。このような会に参加するために沖縄に来ることのできる意欲と時間とお金のある人は限られていると思う。こうした状況は女性研究者に何をもたらすのだろうか。…と

いったモヤモヤを機内で考えつつ帰路についた。12月9日の早朝に雪かきをして始発便で青森を出て、翌日の最終便で沖縄を発って青森でまた雪かきという強行軍と20℃の気温差により風邪をひき、体力と気力を奪われてしまったのが年末には痛かった。こういう余裕のない研究者生活とこの分科会の課題を地続きで考える必要を感じている。

<交流会(ランチセッション)報告>

①まとめ(常任幹事 河野 貴美子さん)

女性研究者問題の分科会開催に先立ち、8日の昼休みに研究者同士の交流の場を持ちました。分科会だけではお互いの立場など詳しいことはわからないので、総合学術集会開催中にこのところは毎回開いています。

今回は、各自お弁当を持ち寄り、お土産のお菓子などつまみながら、参加費はお茶代の100円です。

総学に初めて参加の方たちや、沖縄在住で普段なかなか会えない方々など、多くの仲間との出会いを期待しましたが、集まったのは分科会での報告者や企画担当者中心の総勢10名。それでも、分科会に出られないからこちらにきましたという方や男性の参加者一人も含め、少なめながらも、ゆっくり語り合える人数でした。

まず、自己紹介を兼ねて順番に発言しました。圧倒的にリタイヤー組が多く、その誰もが退職後の方がはるかに忙しい！という現状報告。現役の人たちからはそれぞれが抱えている問題に対し、先輩たちがどう対処してきたのかを参考にしたい、周りに女性が少なくロールモデルがないなど、こういう会を持つことへの期待が出されました。

今や、昔よりずっと深刻で不安定な雇用実態があります。40年近く前も女性が働くことには周囲の抵抗などあったものの、一旦、職につけば、雇用は比較的安定し、継続できる環境でした。ですから自分自身の職探しに翻弄されることなく、保育所探しに走り回ったり、自分たちで学内に作ってしまったり。

やはり、取り巻く状況を考えながらざっくばらんに話し合える、こんなおしゃべり会も必要だなと感じました。

②会計報告(笹倉万里子さん)

収入：参加費 100円×参加者 10名= 1,000円

支出：飲み物と紙コップ 491円

差額：509円 →女性研究者・技術者委員会特別会計へ

3 2017年度 日本科学者会議 女性研究者・技術者委員会 議事録

開催日 2018年3月24日(土)10:00-12:00

開催場所 JSA 会議室(東京)

出席者(敬称略) 朴木、笹倉、福島、峰尾、河野、今枝、石渡

1) 2017年度活動報告

①活動報告

女性研究者・技術者の在り方について検討する、という今年度方針のもとに、女性研究者の実情を明らかにするための「調査チーム」を発足させた。

女性研究者・技術者委員会委員だけではなく、調査研究を担うことができる会員に「調査チーム」メンバーとなることを依頼した。調査内容として、まずは非常勤研究者を対象として、調査を進める手はずを整えた。

「調査チーム」まとめ役を大竹美登利さん(東京学芸大学名誉教授)に引き受けていただき、合わせて委員会にはチームメンバーを自薦・他薦で依頼した。

②会計報告

予備費を清算するとほぼ予算消化できる見通しである。

2) 2018年度活動方針

①活動方針

12月に開催予定の22総学にて、女性研究者実情調査のうちの非常勤研究者調査に焦点を当てて報告することを目指して活動する。

また、持続可能な委員会活動ができる体制作りを意識しながら、若手の女性研究者の委員会活動への参加を促す。

「非常勤研究者の実情調査」と関連させつつ、女性の雇用問題について積極的に発信する。

②予算案

5月に開催される定期総会を経て、委員会予算が決まるため、大まかな使途について議論し、具体的な案についてはメール審議とする。

③第22回総合学術研究集会 分科会設置申請の件

分科会を設置申請することとした。

3) 2019年度～2020年度の委員会体制

支部	氏名	分担・備考	勤務先・所属
兵庫	朴木 佳緒留		京都教育大
岡山	笹倉 万里子	委員長	岡山大
大阪	中村 寿子	広報	JSA 大阪支部
	渋谷 光美	広報	羽衣国際大
京都	長谷川 千春	ホームページ	立命館大
東京	今枝 暁子	ML、ホームページ	
	河野 貴美子	全国常任幹事	
	峰尾 菜生子		中大院生*
	石渡 眞理子	副委員長	
	眞嶋 麻子	(会計)	日本大学
青森	廣森 直子		青森県立保健大学

4) その他

- ・「日本の科学者」通信の件：笹倉さんの執筆を了解した。

日本科学者会議からのご案内

* 第22回総合学術研究集会の予稿集を販売中。女性分科会を含め各分野の充実した研究成果を掲載。量も辞書なみのボリュームです。

1冊：送料込 1500円、3冊以上：1200円+送料

* 本会は、専門を超えて議論・交流し活動する学術団体です。ジェンダーに関する調査・研究、議論・研究も盛ん！皆さまのご入会をお待ちしています。ご友人にもお勧めください。

* お問い合わせは、

日本科学者会議全国事務局

アドレス：mail@jsa.gr.jp

Tel: 03-3812-1472 Fax: 03-3813-2363

もしくは各都道府県の支部へ

